

平成31年度 学校評価自己評価書

学校名

北海道札幌養護学校

1 本年度の重点目標

□「わかりやすさ」「伝わりやすさ」の追求により 情報共有・情報発信を充実するとともに「チームワーク」をもって「つながりのある教育活動」を創造する。

2 本年度の経営方針

- 教職員一人一人の経営参画のもと、協働体制による計画的、組織的な運営を推進する。
- 学習指導要領の改訂等に応じて、教育課程、教育環境等の改善・充実を推進する。
- 教務、事務の各部門の機能的な連携や効率化を進め、時間外勤務の縮減及び円滑な運営を推進する。
- 保護者、関係機関等に教育内容・方法等を積極的に公開、説明し、信頼される学校づくりを推進する。
- 地域の特別支援教育センターとしての役割を果たし、学校、関係機関等との連携を充実する。
- 「わかりやすさ」「伝わりやすさ」を重視した合理的配慮を充実し、言語環境、学習環境を整備・充実する。
- 校内支援体制を充実し、関係機関等との連携に基づく安全安心に配慮した学習環境の整備を推進する。
- 危険回避や予防的な対応を重視し、迅速で機能的な危機管理体制を充実する。
- 緊急性、必要性、優先性に基づいた計画的な予算執行及び円滑で適正な事務処理を推進する。
- 学校評価や学校評議会等の外部評価を活用し、経営上の課題を明確にした改善・充実を推進する。
- 教育公務員として、身なりや言動に留意し、服務規律の遵守を厳正に保持し、各自の職責や役割を果たす。

【本年度の経営の重点】

「わかりやすさ」「伝わりやすさ」を重視した情報共有、情報発信を進め、職責と役割を明確にして、機能的な連携のもとに職務を遂行する。

- 校内組織体制、教育活動等の経営に関する課題を明確化し、改善に向けた取組を推進する。
- 教務、事務、各部間の事務処理等の効率化、迅速化及び機能的な連携を推進する。
- 一人一人が職責と役割を自覚し、職員の相互理解と協働による円滑な職務遂行を推進する。

3 自己評価結果

- ◆ 評価段階：A（十分である、3.5以上）・B（おおむね十分である、3.0以上3.5未満）・C（不十分である、2.5以上3.0未満）・D（改善を要する、2.5未満）

※ 参考：各項目の下段にあるアルファベットは、平成30年度の学校評価の評価段階（ないものは今年度新規の項目）

	評価項目	達成状況 (教職員)	取組の適切さ (保護者)	検討事項・改善の方策等
1	人権尊重を基盤として、児童生徒のよさを活かし、可能性を最大限に引き出す指導に努めている。	A	A	・8割以上の保護者は、学校の取組を評価している。一方、自由記述で指導における教職員の言葉遣いや態度への指摘もあることから、取組をととして、児童生徒の人権尊重の意識を一層醸成していく。
2	活動選択や意思表示等により、児童生徒の主体的な活動を引き出し、やりとりの活性化をとおして思考を深める体験的な学習指導に努めている。	B	A	・保護者は、学校の取組を高く評価しているが、教職員は、取組が不十分と受け止めていることから、今年度の研究成果を活かしながら、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導を推進していく。
3	キャリア教育の視点から、学校間、学部間の接続を考慮し、卒業後の生活を見据えた進路指導に努めている。	B	A	・教職員のうち、高等部は「A」の評定が多いものの、小中学部は「B」「C」の評定が多く、学部間での意識の差が見られることから、長期的な視点をもった指導の充実に努めていく。
4	ウェブページや学校だより、学年通信等で児童生徒の様子や学校の教育活動等をわかりやすく伝えている。	B B	B B	・保護者評価及び教職員評価ともに、昨年度の評価と同等であるが、評定値では両者とも昨年の数字を下回っていることから、具体的にわかりやすい表現での説明に一層努めていく。
5	新学習指導要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域に本校の教育課程をわかりやすく伝えることができるよう理解に努めている。	C	B	・教職員評定値が2.9Pと全項目のうち2番目に低い評価となっており、伝えるためのベースとなる職員による教育課程の理解に課題が見られるため、学部研修等を通じて教職員の教育課程の理解の深化を図っていく。
6	コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用した学習指導の充実に努めている。	B	B	・校内で取組を着実に進めているものの、教職員評価、保護者評価とも評定値が下位に位置していることから、取組に係る情報発信を積極的に進めていく。
7	個別の指導計画に基づいて行われた学習状況や結果を評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善を図っている。	B	A	・保護者には、学校の取組が着実に理解されており、教職員も説明を丁寧に行っていることから、指導に対する目標の設定や評価、改善の充実を一層図っていく。
8	授業者支援会議や授業公開等、他者からの意見を踏まえて、授業改善を図っている。	B	A	・保護者や他の教員からの意見を取り入れた授業改善は行われているが、関係機関との連携に関する課題について指摘を受けていることから、内容に応じて多様な意見を聴取し、授業改善を図っていく。

9	児童生徒の健やかな成長を図るため、PTA の活動に積極的に参加している。	C	A	・保護者は参加への意識が高いが、職員は、児童生徒の課業時間中の活動が多いことから参加が十分でないと受け止めている。次年度は、職場内で職員の参加を認められる雰囲気を醸成していく。
10	いじめ、体罰や不適切な言動等のない安心・安全な学校づくりに努めている。	A A	A A	・保護者評価及び教職員評価ともに高い評価を得ている。今後も指導の一層の充実を図るとともに研修等と通じて児童生徒の人権尊重の意識を醸成していく。

	評 価 項 目	達成状況 (教職員)	検討事項・改善の方策等
本校 校 設 定 項 目	職責と役割を自覚し、職員の相互理解と協働による円滑な職務遂行を行っている。	A	・職員間の分業や相談連携などの取組が浸透しており、協力体制のもと指導が行われている。教員の職責や役割など、教員としての基本的な資質能力の育成を図るため、あらゆる機会を通じて研修を実施する必要がある。
	「ワークライフバランス」を意識した働き方を心がけるなど、健康でやりがいをもって勤務できるよう、業務の改善を図っている。	B	・ワークライフバランスを意識した業務の推進を実施している職員は増えていくが、全体的に業務量過多のため、業務内容の整理・廃止などを進め、協働体制による組織運営の一層の推進を図る。
	道徳教育を通じて、児童生徒に自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に努めている。	B	・評価を意識した道徳教育の取組が今年度から始まった中で、各職員の意識的な取組は増えているが、道徳教育の目標や内容などをさらに理解し、取組を進めるため、教育課程研修等を通じて各学部の取組などの理解を深める取組を推進する。
	各教科、各領域及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導に努めている。	B B	・学年単位での教育活動は、各指導内容と関連付けながら取組が進められている。一方、各学年集団に一定の規模があることから、学年間、学部間での取組の推進には課題が残る。
	特別支援学校職員としての専門性を高める研修を実施し、児童生徒の指導や分掌業務に活かしている。	B	・一部の職員は、様々な機会を通じて自らの専門性向上を図っているが、校内全体の取組に至らないため、かんりしょくから道外研修などの先進的事例の参加推進や校内研修の充実などの呼びかけを一層積極的に行う。

4 自己評価における特記事項

○ 今年度から新たに3カ年の継続評価を実施することから、国内、道内の状況を踏まえた校長の運営方針や新学習指導要領のポイントとなっている項目など中心に評価項目を設定し、評価する。
--

5 保護者アンケート自由記述の項目

生徒指導に関する対応	関係機関との連携	高等部の移転に関わる意見	P T A 活動
学習指導・指導方法	学校行事・授業参観	わかりやすい説明	

6 教職員アンケート自由記述の項目

業務の効率化と適正な校内人員配置	教職員間の連携・協力	教員の資質・専門性の向上	狭隘化解消
施設設備の不具合	定時退勤日・時間外勤務縮減	職員研修	生徒指導